

# かねだ勝年後援会 NEWS

～各地で復帰報告会開催～



3月の入院以来、ご支援頂いております皆様には多大なるご心配をお掛けしましたが、リハビリも順調に進み、お陰様で6月8日に退院し、地元各地で「復帰報告会」を開催させて頂きました。

報告会で金田代議士は、「病を患い人の弱さを身を持って知った。人の心が伝わる政治家として新たな一步を踏み出すことができた。」と、これまでのリハビリの日々を振り返りながら、多くの方の支えでこうして地元の皆様の元に帰ってくる事が出来た感謝の気持ちを申し上げます。

また、震災対応について、菅政権の現場感覚とスピード感のなさを指摘し、国民に約束した公約を実現しない民主党政治のプレを、所属する予算委員会で徹底的に追求していくことを誓い、完全復帰をアピールしました。



6.19 湯上市



6.23 男鹿市



6.26 北秋田市



7.2 能代市



7.2 南秋田郡(五城目町)



7.3 大館市



7.9 鹿角市



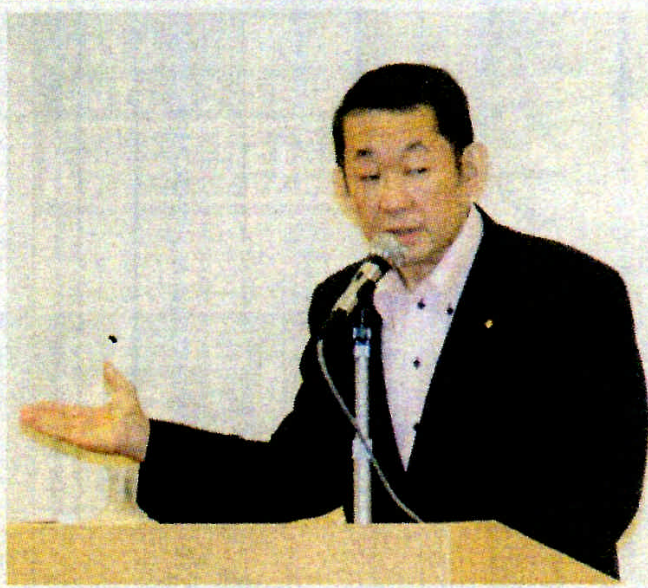
たくさんの方々より温かい励ましの言葉を頂きました。



金田衆院議員

# 民主党政権を批判

能代市で  
国政報告会  
病後の回復ぶりアピール



支持者を前に国政報告をする金田氏  
(能代市の平安閣で)

金田勝年衆院議員は自  
民党、東北比例Ⅱの国政  
報告会は2日、能代市元  
院、リハビリを経て政治

町の平安閣で開かれた。  
今年3月に脳出血で入  
山本では初の報告会。  
「大変心配をお掛けした  
が、完全に復帰できた」  
と回復ぶりをアピールす  
るとともに、民主党政権  
による震災の復興対応の  
遅さなどを批判、「この  
まま実行力のない政治が  
行われてはいけない」と  
訴えた。

活動を再開してから能代  
山本では初の報告会。  
「大変心配をお掛けした  
が、完全に復帰できた」  
と回復ぶりをアピールす  
るとともに、民主党政権  
による震災の復興対応の  
遅さなどを批判、「この  
まま実行力のない政治が  
行われてはいけない」と  
訴えた。

金田氏は3月10日に入  
院し、リハビリを経て6  
月8日に退院した。報告  
会には、後援会関係者や  
支持者ら約210人が出

席。白坂祥三会長はあい  
さつで金田氏の病状など  
について「ストレスと、  
生活習慣が原因とみられ  
る。今は8割方回復して  
おり、左足の軽い運動障  
害も今後さらに良くなる  
だろう」と説明した。

来賓あいさつに続いて  
登壇した金田氏は「リハ  
ビリ中は、明日を信じて  
懸命に頑張る人たちの姿  
に、人間の価値というべ  
きものを身を持って感じ  
た。人の心が分かる政治  
家へと、一皮むけたと思  
っている」と述べた。

民主党政権について  
は、震災の復興対応の遅  
さを批判。被災者支援を  
盛り込んだ第2次補正予

算案について「今後、審  
議入りするが自民党はど  
んどん協力する」などと  
述べた。

また、子ども手当の支  
給額などに触れ「政権交  
代後、言葉に責任のない  
政治が行われている。政  
治家はブレずに、言葉に  
責任を持たねばならな  
い」と声を強めた。



復興計画

# 地元の視点で監視

## 病床での身動きできないもどかしさ

政治活動に本格復帰  
し、3日に大館市で国  
政報告会を開催した金  
田勝年衆院議員に、治  
療トリハビリの日々の  
心境や、東日本大震災  
発生後の国政の動き、  
今後の活動などについ  
て聞いた。

◇ ◇ ◇  
「倒れてから復帰す  
るまで、どんな心境だ  
ったか。」  
「東日本大震災や統  
一地方選の時期でもあ  
り、国会や地元から離  
れていることに無念の  
だ。」  
「入院中も陳情の電  
話がかかっていた。病  
床から各関係機関へ  
働きかけて、一定の解  
決をみた問題もあつ  
た。」  
「震災発生から現在  
まで、国政の動きをど  
う感じる。」  
「言葉に責任を持た

## 復帰した金田氏に聞く

「言葉に責任を持た



ない、実現力のない政  
治をしている。財源、  
景気・経済、農業、外  
交の全てで破綻してい  
る。そして危機管理問  
題にもスピード感がな  
い。阪神大震災に比べ  
て対応が倍以上遅れて  
いる。震災を延命策に  
すり替える最低の政権  
だ。政権を返上して、  
「まず震災からの復  
興。日本海側の国土軸  
を充実させるチャンス  
だ。大震災からの復興  
に当たっては、太平洋  
側だけでなく、日沿道  
など日本海側のインフ  
ラも整備されなければ  
ならない。東北全体の  
復興がどう進むのか、  
地元秋田の視点で国の  
計画を監視する」

「地元の有権者にメ  
ッセージを。」  
「しばらくは、つえ  
を使用しての歩行とな  
るが、思考と言語能力  
は変わらない。残され  
た命の全てをかけて、  
永田町で37年間、公務  
一筋で培ってきたもの  
を地元秋田のため、一  
日も早い東北復興のた  
めに生かしたい」

「秋田の県民病」といわれる脳血管疾患に倒れ、約3カ月間の入院生活を経て政治活動に復帰した自民党衆議院議員の金田勝年さん(61) 東北比例。国政報告会で地元能代市入りした金田さんに病状や入院時の思い、復帰後の決意などを聞いた。(聞き手・伊藤 仁)

—3月10日に脳出血 をつげながらソファで寝て倒れた時の状況は。 込んでしまった。朝6時ごろに起きて、トイレのあと風呂のスイッチを入



病気体験で「政治家として一皮むけた気がする」と語る金田さん

金田衆議院議員インタビュー

病気体験

周囲の温かさ身をもって

今後 恩返し 人の心伝わる政治家に

きよつとしたところ、左半身が動かない。まるで左足が冷凍マグロ、左腕が冷凍カツオの状態。『あたたか』かもしれない、近くにあった携帯

「復帰までの間は、妻には怒られてばかりいた。あの頃は、解散総選挙の観測もあって、週2回ぐらいいは秋田に戻っていた。疲れがたまっていたのかもしれない」

移動し、玄関にあった傘をかって、6月8日の退院までリハビリに取り組んだ。言語能力や思考能力に問題はなく、手足の麻痺が中心。理学療法、作業療法が1日当たり4時間、正味3時間ぐらいたみたく、何度も気を失いそうになったが、右

地獄に一步足を踏み入れた。結局、救急車で三田(東京都港区)にある病院に運ばれるまで2時間半ぐらいい。医者から『出血が少なく、ラッキーでしたね』と言われ、ようやくホッとした。入院後の経過は。ちろん東日本大震災もあって、それと重なって、

「高いいね。しかも、刺し身が醤油に漬かると、